

一事業化ではとの会社と協力すればいいのか」。九州大学の安達千波矢教授は頭を悩ませる。世界をリードする研究者を後押しする国最先端研究開発支援プログラム（FIRST）の下、安達教授は有機ELの发光効率を高める材料の開発に成功した。だが事業化となると手を擧げる企業がなかなか見あたらない。

関係省庁にも支援の相談をするが、方策は見つからない。有機ELのデイスプレーは世界市場の9割以上を韓国企業が占める。政府のアロシェクトは国内での実用化にこ

## トツブ研究

たれり、国内企業が関わる  
りにいく分野では支援し  
にくい面もあるようだ。

〈下〉

## 産業界の人材、役割重要

FIRST (最先端研究開発支援プログラム)	名称	IMPACT (革新的研究開発推進プログラム)
約1000億円	予算規模	約550億円
大学などの有力研究者30人。企業所属は1割	プロジェクトの責任者	十数人のプロジェクトマネージャー。 企画、立案、実施などに専念。企業の 人材に期待
各分野で世界トップの研究成果を出す	主な狙い	省エネなど5テーマでイノベーション創出

プロジェクトが進み、成果も開設を検討中だ。政府が最先端研究を内企業の競争力が弱く、組む相手が見つかりにくいい分野も多い。それならば、自分たちでベンチャー企業を立ち上げる動きも出てきた。

その一つが、大阪大学の川合知二特任教授らのプロジェクトから生まれたクオンタムバイオシステムズ（大阪市）。昨年創業した。病気に関連するDNAの一部の変化まで

点支援するのは、日本後継として2014年から始まる「革新的研究開発推進プログラム（PACT）」では従前の反省も踏まえ、より用化を見据える。研究開発の責任者となるアプローチを産業界などから招き、大きな権限を与える。

（ 安倍晋三首相）は今日本からP.Mの公募を始めました。3～5年は企業なりに離れて専念する。ただ経済同友会の科学技術・イノベーション委員会委員長を務める野町国夫コマツ会長は「企業でも優秀な人材は限られてゐる。そんな人が社内の出世をあきらめてくるだとうか」と懐疑的だ。電機メーカー幹部も「どのレベルの人材を出すか社内

内レ機械の業界は、月次会報で、行役副社長は、製造業は部門を率いる小笠原、煙草改良部の「サイエンスなくして成り立たない」と指摘する。国際競争力向上には産業連携が不可欠。橋渡しがうまくいかなければ巨額の研究開発投資も無駄になりかねない。

産学官それぞれの間に、ある壁や分野ごとの縦割りを乗り越えられるか、試されている。

P.M.は原則研究しないで議論している。会社の  
で大学と企業、研究室とも「P.M.もある」と話す。  
市場をつなぎ新事業を生み出すのが役目。その「人選が成功の鍵を握るといつても過言ではない」と政府はP.M.経験者がプロジェクトの後に企業に戻って活躍するなど、外部での経験を評価する企